

一〇一三年七月二一日

一〇一三年七月一五日

まなかひに甲山見えバス涼し

せいじ

独り居となり冷蔵庫大き過ぎ

うつぎ

一〇一三年七月二〇日

一文字波止を呑み込む土用波

素秀

瀬の樂の遠近となる避暑の徑

せいじ

キャンプ飯なればお焦げもまた旨し

きよえ

一〇一三年七月一九日

赤紫蘇の染みたる指でキーボード

むべ

観覽車抽んでてをる夏木立

かえる

山湖涼し汀をつづる樹々もまた

はく子

毎日句会みのる選・一〇一三年七月二三日

激つ瀬をひと筋よぎる蜘蛛の糸

せいじ

一〇一三年七月一八日

明日香

一〇一三年七月一七日

もとこ

苗筋の乱るる風の青田かな

もとこ

一〇一三年七月一六日

もとこ

端居して口達者なる子の相手

もとこ

桟橋にひとり佇む藍浴衣

もとこ

久闊の友と地産の鱧づくし

もとこ

夜濯ぎや明日の遊山もこの服で

もとこ

うつぎ

千鶴

澄子